

■5 エクステンションに関する事項

本学におけるエクステンション活動は「地域に開かれた大学」を目指しており、大学の持つ資源を地域に還元する活動にとどまらず、地域の人材や資源を大学に活かして、これを本学の教育や研究に活用した上で、その成果をさらに改めて地域に還元している。

具体的な事業としては、市民を対象に生涯学習機会を提供する「RECコミュニティカレッジ」による生涯学習事業、地域社会や企業への研究開発・マネジメント支援といった産官学連携事業、大学の施設・設備を地域へ提供する施設開放事業、学生の起業家精神を支援する学生ベンチャー育成事業、地域社会福祉に寄与することを目的とした「福祉フォーラム」などの社会連携事業を展開している。

2010年度においても、さらなる地域社会との連携を強化しながら、生涯学習拠点としての機能強化を図り、産官学連携事業においては、従来の技術開発を積極的に推進しながら、地域の中小企業をはじめ行政機関や金融機関等との連携強化に努める。

また、関西経済圏の活性化と拠点形成を見据え、これまでに蓄積したノウハウやネットワークを活かして、大阪地域における新たなエクステンション活動を展開する。

1 生涯学習事業の展開

● 龍谷ジュニアキャンパスの開設

生涯学習事業「RECコミュニティカレッジ」では、本学の特色を活かし、「仏教・こころ」「文化・歴史」「文学」をはじめ多くのジャンルの講座を年間約400講座開講するとともに、小学生を主な対象とした、「龍谷ジュニアキャンパス」を新たに開設する。

● 受講者サービスの安定と充実

2009年度から導入した「RECコミュニティカレッジ終身会員制度」「履修証明制度」及び「新REC講座システム」について検証、改善を行い、各制度の安定と充実を図る。

● 大阪及び東京での事業展開

「RECコミュニティカレッジ大阪」は、「仏教」「文化」「歴史」を中心に年間60講座を開講し、受講者数延べ3,000名を目指す。また、地の利を活かし、壮年・若年層も受講しやすい講座、大阪市や周辺市町村との連携講座の開講を模索する。「RECコミュニティカレッジ東京」は、「仏教」と「京都の文化・歴史」をテーマに年間9講座を開講する。

● 龍谷講座

本学専任教員を中心に、前期・後期に各1シリーズ、年間6講座を実施する。会場は、講座内容・担当講師に応じ、瀬田学舎及び大宮学舎での開講も検討する。なお、大阪梅田キャンパスを活用し、パナソニック株式会社に加えて、野村證券株式会社とも企業連携型講座を実施する。

2 産官学連携事業の展開

● REC BIZ-NET（RECビジネスネットワーククラブ）の展開

本学独自の異業種企業ネットワークである「REC BIZ-NET」の充実を図る。積極的な会員訪問によるニーズ把握に努め、会員数の増強、会員からなる「運営委員会」を組織し、ニーズに応じた研究会の実施やプロジェクトチームの創設を促進する。

● 研究シーズの発掘・育成支援の強化

知的財産センターや研究部等の関連部局との連携を強化し、積極的なコーディネート活動による教員の研究シーズ発掘・育成支援、企業ニーズとのマッチングを推進する。特に、文部科学省や経済産業省等が実施する支援策等への積極的な申請を行い、公的資金の導入による研究推進を推進・支援する。

● 社文系産官学連携の推進

社文系の研究シーズを活用した、中小企業等の支援策や行政機関、金融機関等との連携方策を目指す。また、自治体からの委託をはじめ、産官学連携講座・リカレント講座の開講を継続的に実施し、企業等における人材育成・確保に向けた取り組みの支援を行う。

● 大阪地域における展開

大阪エリアに在籍する約3万人の卒業生とのネットワークの構築を目指す。具体的には、卒業生によるビジネスマッチングイベント（異業種交流会）の開催やREC BIZ-NETへの誘導、新たなプロジェクトの創設等を目指す。また、地の利を活かし、官公庁や大阪を拠点とする経済団体、金融機関との連携強化を図る。

3 施設開放の展開

● 施設開放の促進

エクステンション事業の一環として、RECホール（瀬田キャンパス）、紫光館（深草キャンパス）、大阪梅田キャンパスの3拠点を中心とする施設の開放を促進する。

● ベンチャー育成や第二創業の支援・育成の強化

RECレンタルラボでは、ベンチャー・第二創業の社会への巣立ちを支援する。特に、技術面のみでなく経営面での支援メニュー等を経営学部等の協力を得ながら充実させる。

● 理工学部所管の研究設備や実験機器の利用

REC施設等の学外者使用規程、受託研究員及び受託研修員規程の改正により、理工学部教員支援のもと理工学部所管の研究設備や実験機器の利用を図り、研究開発等の促進や高度化を支援する。

● 子ども一時預かりの実施

生涯学習講座におけるニーズに対応するため、RECホール内の一室を託児室として活用し、コミュニティカレッジの受講生を対象に、子どもの一時預かり（土曜日に限定）を引き続き実施する。

4 学生ベンチャー育成事業の展開

●教育事業

これまでの「応用・実践能力を備えた学生の育成・輩出」、「大学発学生ベンチャーの発掘・育成」という目的に加えて、新たに「地域産業活性化への寄与」、「学生と企業・地域とのマッチング」についても推進する。また、アントレプレナーシップやビジネスプラン作成の支援講座の実施、企業との連携講座への参画等を行う。

●イベント事業

ベンチャーマインドの啓発、優秀なビジネスプランの発掘、実行委員の企画力・運営力・コミュニケーション能力等の育成を目的として、ビジネスプランコンテスト「プレゼン龍」、高校生対象ビジネスアイデアコンテスト、講演会、合宿等を実施する。なお、事業の実施においては、外部資金獲得や企業や行政との連携による事業の推進を検討する。また、高校生対象ビジネスアイデアコンテストについては、高大連携も視野に入れる。

●インキュベーション事業

これまでは、学生を対象とした創業準備ブースの貸出やベンチャー創業やビジネスプランコンテストへの参加に興味のある学生に対して相談会を行ってきた。2010年度は、ビジネスプランコンテスト入賞者等への起業準備サポート（起業相談・各種申請方法等の指導）を行うなど、ビジネスプランコンテスト後のサポートを強化する。

5 福祉フォーラムの展開

●福祉フォーラムの活動目的

福祉フォーラムは、本学の建学の精神を活かしつつ、すべての人が健全で安らかな生活ができるよう、地域社会、特に滋賀県・大津市を基盤として福祉社会の発展に寄与することを目的に活動する。

●関係機関との連携強化

2010年度においても、従来の福祉フォーラム事業と同様に、常に地域社会を主役に置き、行政や社会福祉現場で働く専門職、NPO団体の関係者との関係をさらに強化しながら本事業を推進していく。

●福祉職を対象とした専門セミナーの充実

2010年度は、2007年度から取り組んでいる「専門セミナー」の充実を目指す。専門セミナーは、本学教員のみならず現場で働くスペシャリストを招いての講義を行っており、独自の研修を実施しにくい福祉現場から大きな評価と高い期待が寄せられている。

●福祉フォーラムの発展的展開の検討

福祉フォーラムは地域社会に主眼をおいた地域貢献活動であり、第5次長期計画「地域社会への貢献」との関係性も大いにある。2010年度以降の展開については福祉フォーラムのあり方を含め、より良いかたちで発展できるよう検討を重ねていく。

6 知的財産に関する取り組み

●知的財産活動の新たな取り組み

知的財産活動に貢献した研究者を対象に「発明奨励費」を新たに設置し、新たな発明の創出や研究進捗の加速化を支援する。具体的には、本学で初めての発明をした研究者に「発明新人賞」、本学の知的財産活動に特に貢献した研究者に「発明功労賞」を設け、発明奨励費を付与する。

●知的財産セミナーの実施

発明の発掘や啓発活動の一つとして2010年度も2009年度に引き続き、知的財産セミナーを実施する。2009年と同様に瀬田学舎のみならず深草学舎でも実施することで、全学的に知的財産活動を広める。

●特許出願（審査請求含む）及び技術移転の活動

今後も社会に還元される発明の特許出願を目指すとともに、既出願案件の審査請求も滞りなく進める。また、拒絶通知への対応は、顧問弁理士事務所及び顧問弁護士事務所と相談の上、権利確定を目指す。案件によっては外国での出願・審査請求も実施する。

技術移転については、REC等と連携を図りながら速やかに対応するとともに、新たな技術移転機関を模索・検討する。また、引き続き、特許庁及び発明協会等の関係諸機関との関係を維持していくことにも努める。